

藤井先生の教材構造図を公開!

教材分析編 表で構造を理解↓筆者の意図・述べ方の効果に着目

【分析の観点】①筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。

②筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

結論		本論後半 (人間と言葉の性質)				本論前半 (ゴリラ, ドラミングへの誤解と実態)						序論	展開
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	段落	展開
<p>具体的事例なし</p>		<p>具体的事例なし</p>				<p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p> <p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけたりするのである</p> <p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p> <p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけたりするのである</p>						<p>私が研究しているゴリラは十九世紀の中頃／ヨーロッパの探検家／てのひらで胸をたたくドラミング／おびえた探検家は銃で撃ち殺した</p> <p>私が研究するようになったのは、もう三十年以上も前／まだゴリラは暴力的で恐ろしい動物と考えられていた</p> <p>ゴリラの群れ／十頭前後でシルバーバックがリーダー／ドラミングは二つの群れが出会ったときによく起きる</p> <p>しかし、めったに戦いにはならない</p> <p>ドラミング／「さあ、出発しよう」と呼びかけ／けんかを制止／メスや子供たちもドラミングをすることがある</p> <p>ドラミングは自己主張・呼びかけ・不満や挑発／ゴリラは胸をたたいて気持ちを表したり、相手に誘いかけたりするのである</p>	<p>野生動物の行動を誤解</p> <p>取り上げられた事実</p>
<p>作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとするのが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。</p>		<p>人間の見る目がいかに誤解で満ちているかを知ることができた</p> <p>誤解を解くため／相手の立場に立ち、考えることが必要である／常識を疑う態度も必要となる／思いを巡らすことが大切だと思っ</p> <p>その動物が暮らす自然をよく知ることが必要になる／人々が暮らす文化や社会をよく理解することが必要である</p> <p>国境を越えて行き交う時代／だからこそ自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑い／相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である</p> <p>身につけるべき態度・姿勢</p>				<p>人間がある印象を基に「物語」を作り、伝えたがる性質をもっているから／言葉は発明</p> <p>しかし一方で／言葉には脚色、誇張の力／間違いに気がつかないうちに、社会の常識になってしまふことがよくあるのだ</p> <p>人間の社会にも悲劇をもたらす誤解を解ける間柄／大きな悲劇を抑える</p> <p>だが、言葉や文化の違う民族の間では「物語」が独り歩き／紛争が絶えない／世界各地で争いや衝突が絶えない</p> <p>人間の社会</p> <p>人間が誤解し、「物語」が作られる。</p> <p>「物語」による悲劇はゴリラに限らず、人間にも。</p> <p>↓ゴリラを具体例として、人間社会へ警鐘を鳴らしている。</p> <p>「物語」による悲劇を生まないためには何が必要か。どんなことを意識すべきか。</p> <p>今ある常識を「物語」かもしれないと疑い、真実を知ろうとしてほしい。</p> <p>それが、人間社会の悲劇をなくし、新たな価値に気づくことにつながる。</p>						<p>筆者の考えを表す語句・表現</p> <p>私たちは「誤解」することがよくある</p> <p>都合よく解釈</p> <p>「物語」</p> <p>その格好の例</p> <p>凶暴で好戦的な動物と見なした／戦いの宣言と解釈したから／ゴリラを暴力の権化、戦い好きな怪物と見る</p> <p>しかし、大きな間違いだとわかってきた</p> <p>ドラミングに対する誤解</p> <p>筆者の主張</p> <p>「常識＝真実」ではないという問題提起</p> <p>ゴリラのイメージ</p> <p>↓好戦的、凶暴</p> <p>ゴリラの実態</p> <p>↓群れて生活。いつも戦っているわけではない。</p> <p>ドラミングの本当の意味。</p>	

本教材では、人間が言葉によって作り上げた見方・考え方を「物語」と表現している。そして、それが引き起こしたゴリラの悲惨な運命を事実として取り上げ、誤解に基づく「物語」は人間社会にも悲劇をもたらすこと、それを超えるために必要な態度について述べている。

上記の教材構造図から、第四～六段落には、筆者の研究によってわかったゴリラの実態が書かれていることが見て取れる。ここでは、第二～三段落と対比させるように、ドラミングの実態について中心的に取り上げている。これが好戦的な姿の表れではなく、自己主張や呼びかけなど、さまざまな意味をもつことが、全体の四分の一の段落を使って丁寧に説明されている。

第八段落から、「物語」は人間の性質によって作り出されるという、筆者の認識が述べられていく。これ以降、具体的な事実は取り上げられず、主に筆者の考えが書かれていることが、上図からよくわかる。言葉によって「物語」が作られ、それがゴリラを悲惨な運命にあわせたように、人間社会にも悲劇をもたらす。この筆者の主張は、文章前半に書かれたゴリラの具体例によって、より理解しやすくなっている。ドラミングに対する誤解とそれによる悲劇という構図を、前半で丁寧に説明しているからこそ、後半では、人間についての具体的な事実を取り上げる必要がなかったのだといえるのではないか。

第十段落冒頭「アフリカの森で暮らすゴリラの調査を通じて」によって、ゴリラの具体例と人間社会の現状がうまくリンクし、「物語」を超えるために必要だと筆者が主張する態度が、非常に読み取りやすくなっている。

これらの分析を通して、本教材で、筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図を捉えることができた。授業では、生徒の初発の感想・気づきをきっかけとしながら、こうした筆者の意図・述べ方の効果を捉えさせ、筆者の主張に迫らせたい。

① 指導計画 (全五時間)

■目標

- 筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。
- 筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

■展開

第一次 (二時間)

文章全体の内容を捉える

- ・範読を聞いた後、初発の感想を書く。
- ・音読後、文章を序論・本論・結論に分け、ワークシートに重要語句を書き出しながら全体の内容を把握する。

第二次 (二時間)

述べ方に着目して本論を読む

- ・本論前半(ドラミングへの誤解と実態)を読む。
- ・本論後半から結論にかけて、人間や人間社会について述べた部分を読み、筆者の主張を捉える。

・筆者の主張を踏まえ、ゴリラの具体例が取り上げられている意図を考える(本稿)。

第三次 (二時間)

自分の考えをもつ

- ・学習を振り返り、人間、社会、自然などについて自分の考えを書く。

② 指導の工夫・学習の実際

①初発の感想から、生徒の実態を把握する 生徒の初発の感想には、

- ・ドラミングの本当の意味を誤解されて、ゴリラはかわいそうだ。
- ・ゴリラの運命を変えたものとして、「物語」という言葉は、筆者にとって特別なものだと思う。
- ・今の常識を疑って「物語」を超えることで、新しい世界を知ってほしいというのが、筆者の言いたいことだと思う。

というものが見られた。文章で取り上げられている事実のおもしろさ、それをもとに、筆者が人間社会について考えを主張しようとしていることは、多くの生徒が読み取ることができていたようだった。

その一方で、

- ・後半の筆者の主張を考えると、ゴリラについて書かれた部分が長すぎる。
- ・前半のゴリラのことについては具体例があるが、後半の人間のことについては抽象的な話に感じる。

という感想から、生徒は、筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図や効果について十分には気づけていないということがわかった。

このことから、授業では、その意図について考えさせ、「物語」がもたらす人間社会での悲劇や紛争について説得力をもって説明するために、ゴリラの例が文章の中で効果的に使われていることに気づかせることにした。

②筆者の例示の意図について考えさせる

第二次では、筆者の主張を捉えたいうえで、「後半の筆者の主張を考えると、ゴリラについて書かれた部分が長すぎる」という初発の感想を取り上げ、クラス全体で意見を交流した。

生徒A シルバーバックのドラミングは、「ゴリラの語る言葉」という感じがして大事だと思っています。

生徒B ドラミングの誤解についての説明としても必要です。

生徒C 私も、この部分を削ってしまうと根拠がなくなると、説得力が弱くなってしまうと思います。

教師 何の説得力？

生徒C 後半の、筆者の言いたいこと。

生徒D 私も、結論のために、ゴリラの具体例は必要だと思います。人間の人間に対する問題について言うために。

生徒E 第十段落に「ゴリラの調査を通じて」とあるから、ゴリラの例を使って、筆者は考えを述べているんだと思います。

これらをや取り取りを受けてクラス全体に確認したところ、多くの生徒がゴリラの具体例の必要性を認めた。そこで、教師から、本時の主発問を投げかけた。

教師 筆者がゴリラの具体例を取り上げたのは、なぜだろう。

生徒F 第九段落に「人間の社会にも」と書いてある。「にも」だから、ゴリラに対する誤解の話が人間にも当てはまるとい

ことになります。

生徒G さっきDさんが言ったように、結論では人間どうしの態度のことを言っているけど、ゴリラの例のおかげで、それがわかりやすく感じます。

教師 ゴリラの具体例があることに對して、人間の具体例がないのはどう思う？

生徒H いらなと思います。ゴリラの例で人間社会のことも説明できているから。

生徒I Fさんが言った第九段落に、「言葉や文化の違う民族の間では」とあって、人間どうしても、コミュニケーションが取れなかったら、「物語」によって争ってしまふことがあると書かれている。この部分がゴリラの「物語」と似ているから、人間の例はなくてよいと思います。

生徒たちは、筆者が、人間社会のことを説明するためにゴリラの具体例を取り上げたという論理展開を捉えていった。人間の具体例がないということに対しては、生徒H・Iのように、ゴリラの具体例が、人間社会における問題についてわかりやすく説明する役割を果たしていると感じる生徒が多くなった。

人間が誤解に基づいて作り上げた「物語」によって、争いや紛争が絶えないというこ

と、そういった「物語」の真実を知るために必要な態度や考え方が結論に書いてあること、それをわかりやすく示すために筆者がゴリラを例に取り上げたこと。このような論理展開を考ええる学習活動を通して、生徒たちは、筆者の主張や構成の意図を読み取り、第三次で自分の考えをもつことに生かすことができたように思う。

③ おわりに

授業後、生徒の振り返りには、「最初に読んだときは、結論として伝えたいことがよくわからなかったけど、ゴリラの例が人間の社会の紛争について言うために書かれていて、説得力を増しているということがよくわかった」というものがあった。筆者がゴリラの具体例を取り上げた意図が、論理展開を追いかける中でだんだんと見えてきて、納得できたのだろう。

本実践で、教材構造図を作ったことにより、授業を組み立てることができた。今後も、構造図をもとにその教材の特性を適切に捉え、指導に生かしていきたい。